

第1回 (2010.10) 受講感想

義肢系製作会社 シーティング製作部門所属

利用者さまのQOLの向上をサポートする機器を、個々の利用者さまに合わせて設計・製作する我々技術者に求められることは、利用者さまの安心・安全を確保し適切な機器を提供できる知識と技術力であり、そのための日々の研鑽と前進する努力が大切である。そのためには自身のエリアだけでなく、他のエリアの方々との交流が重要だということが、講習会を受講し改めて強く感じた。自身のエリアだけでの情報では偏りが生じる恐れがあり、また作り手の独りよがりになる可能性もある。自身の力量を正確に確認する場として、またさまざまな情報収集の場としても講習会は非常に有意義であった。特に実技実習・演習問題のグループ課題では、互いの技術や機器の情報交換の場ともなり、実践で役立つ多くの知識を得ることができ、また地域ごとの問題や取組むべき課題などを共有することができた。また、講義を通じて利用者さまに接する姿勢や態度、聴く力や子供たちの心を感じる力など、養うべき力について改めて認識・確認できた。

全体を通してすべてに実行委員の皆様のお熱い思いが伝わる講習会でした。この思いを広げることが我々受講者の責務だと思います。この講習会で学んだシーティング技術を利用者さまの快適性と活動性の向上、そして子供達の達成感や満足感に繋げていきます。講師の皆様、そして講習会参加の皆様には大変貴重なお話を聞かせていただき、またご指導頂いたことに感謝いたします。ありがとうございました。

義肢装具士 車椅子・シーティング製作

全体的に良いSE養成講習会だったと思います。また、経験年数のバラつきがあって知識レベルの差もあったと思いますので、この養成講習会が基準となって頂きたいと思います。

それから、公的資格制度を目指して頂く事は勿論なのですが、業界の底上げ、基準となるフォーマット等業界全体が共通意識を持てるような物を作り、ユーザーにメリットが高い物を確立して頂きたいと思います。

どこの会社が・・・と言っている場合ではなくSEという立場を早く確立させる必要があると感じました。

第2回 (2011.9) 受講感想

リハセンター 義肢装具士

どの講義・実習も充実した内容であり、また会場施設内に宿泊したことから講習会のみ集中することができた密度の濃い5日間であった。私の他にも宿泊された方が多かったが、講義間の休み時間のみならず朝夕食の際にも情報交換させていただいた。多くの方から日頃の業務では携わることがない症例、製品のことなど沢山の話を伺うことができ、講義以外でも有益な時間を過ごすことができた。今後の装置の製作・適合や義肢装具士の養成に活かしていきたい。

症例シーティング演習では各グループからの提示案について基本的な部分が似通っていたことは協会としての共通認識が一定レベルで広まっていることの現れだと思われる。しかし、装置の性質上、目指す姿勢とそれを具現化する製作方法ではシミュレータによる採型での手技一つをとっても種々あり、画一的な手法が確立している現状にはないと思われる。それぞれについて議論し、用語の統一、効果の検証などを踏まえて体系立てること目指す取り組みの必要性を感じた。これらは容易ではないが、今後の更なる製作者の資質向上と使用者への高品質な製品の提供のためには不可欠であると思われる。

末筆になりましたが、講師の方々、グループのまとめ役の方々、運営スタッフの方々に心よりお礼申し上げます。

姿勢保持具製作工房 主にシーティングを製作

5日間の講義でしたが、グループワークや演習が多く集中して受講ができました。自分で知っていたこと、知っていると思っていたことの再確認・理解の不十分なところの理解をするきっかけになったと思います。ここで、教えていただいた知識、考え方、方法をいかに今後の仕事に反映させていくか、また、自分の引き出しに上手にしまうかが課題です。

シーティングエンジニアという資格が認識され認知されていくには、シーティングエンジニアが関わっていかに良いものを、使いやすいもの、安心できるもの（様々な意味で）を製作または、選択していただけるか。そこにかかってくるのではないかと思います。

第3回 (2012.11) 受講

車椅子製作販売 主に介護保険に関わる業務

今回の講習会は、以前参加させていただいた同僚からも話を聞いていたので、今後のスキルアップになると思いつても楽しみにしていた講習会でした。結果 SE の資格も取得でき知識や実体験できた事も含めとてもためになる講習会でした。

自分の日々の活動は、介護保険に関わる業務も多く高齢者とのかかわりが多い為、講習内容の「褥瘡予防と高齢者のシーティング」の部分は知識としてもっている部分がありましたが他の部分は初めて聞くことや体験する事も多く新鮮なことばかりでした。

「シーティングにおける考え方とポイント」の部分では、過緊張や筋の短縮・変形やこうしゅくについての自分の知識も浅いものだったと思い知らされました。「採寸や採型の講義」では、私の会社での車いすの製作はすべての車椅子を各メーカー様に全過程をお願いして製作していただき、自社に入荷しそのまま利用者様宅に納品し微調整する形ですが、講習会で一緒になった、グループ内の参加者様達のほとんどが、最終工程の細かな調整（製作の）は自社で行っているため、採寸についての考え方・・・最終的な調整は自社でされるため、そこまで細かく採寸されずに自分で直せる部分はおおよそでの採寸で考えている方もおり、考えさせられる内容でした。

ウレタン削りや採型機を利用したの実習は、自分自身が初めてでしたので、皆様に教えて頂きながら、廻りの方々にはとてもお世話になり、逆にご迷惑をおかけしていたかと思いますが自分の質問にも優しく教えていただけ、この仕事に携わっている方々の優しさや真剣さに触れることができ、とても刺激になりました。

座位保持装置についての内容がほとんどであった為、アクティブユーザー向けの座位姿勢についてや操作姿勢により今後考えられる体調の変化の深い話が聞きたかったです。またメーカー様の方にも参加して頂き、車いすや座位保持装置についての考えも聞いてみたかったのと、PT・OTの方々の考えや家族の方々が製作者側に求めている事についての話をもう少し聞ける時間もあると良かったと思いました。また、弊社の様な介護保険や施設・病院への車いすの販売にも多く携わっている人達が SE 講習会にもっと参加していかないと、標準型車いすと呼ばれている車椅子の定義をより良い車いすにしていく事が遅れてしまうと思いますので、他の会社の方々や PT・OT にも SE の必要性について伝えていきたいと思いました。内容は、限られた時間での講習会だと思いますのでとても良い講習内容だったと思います。試験につきましては、合格の基準がはっきりしていくと良いと思いました。

大変お世話になりました。ありがとうございました。

第4回 (2013.11) 受講

病院リハビリテーション部 作業療法士/シーティング・コンサルタント

この度は貴協会の第4回シーティングエンジニア養成講習会に参加させて頂き、ありがとうございました。全体的に雰囲気がよく、講師の方々の熱意が非常に伝わってくる研修会でした。その中で新たな知識も得られ、質・量共に満足感の高い講習会でした。講習会直後の臨床の場で、シーティングの考え方やウレタン削りのノウハウが役立っています。

講習会ではグループワークでの症例検討がとても勉強になりました。座位保持装置の作成者等、他職種の方と討論を行うことで、自分の職種の専門性をより認識できたとともに、それぞれの職種が知恵を出し合うことで、よりよい問題解決が図れることを経験できました。

全体的な講義を通じては、座位保持装置の製作者が療法士をどのようにみているのか、製作者に任せきりにする療法士がいることなどを知ることができました。座位保持の重要性を療法士がさらに認識する必要があると感じました。

車椅子の適合を実施する際には、まず「ひと」があって、「車椅子」があると考えています。車椅子ユーザーを支援する各々の専門職が、お互いの専門性を知り、お互いの専門領域に責任を持ち、ユーザーの希望がより叶えられるよう車椅子を選定、調整、製作していくことが大切だと感じました。

講義の内容の大半は小児領域の座位保持装置に関する内容でした。OTの岸本先生の講義内容は実践に基づいており、シーティングの基礎から応用までを網羅していました。私自身は主に高齢者のシーティングに関わっていますが、高齢者のシーティングに応用できるヒントが多々ありました。

製作者の考えや技術を知り、療法士としてのシーティングの評価、車椅子の適合の幅を広げていく上で、本研修会に多くの療法士が参加することを期待しています。まずは私の周囲の療法士に講習会の参加を勧めようと思います。

また、シーティング・コンサルタントとシーティングエンジニアの結びつきが強くなっていき、よりよい座位環境の提供が日本のどこでも可能になったらと思います。

今回はありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。

第5回 (2014.10) 受講

車椅子製作販売 作業療法士

1、はじめに

今回、2014年10月31日から11月4日の5日間にわたり開催されましたシーティングエンジニア養成講習会に参加させていただくことが出来ました。

私自身は約10年間理学療法士として臨床現場を経験させていただき、現在車椅子業者の営業として勤め始めて3年目となります。この講習会が今までの2つの業務経験を結びつけ、より深い理解に繋がったと感じています。

2、参加者と講習内容について

講義では基本的・基礎的な内容を実際に経験された現場での事例などを交えてご講義いただき、自身の業務内容と重なる部分もありとても身近な内容として捉え直すことが出来ました。その中でもチームアプローチの重要性、特にシーティングに関する用語を共通認識の下で使用していく必要性を強く感じました。現場では医療関係者が医学・運動学用語を使い、業者が用具等に関する専門用語を使う状況では誤解や理解不足も生じかねないと感じていました。シーティングに関わる人達が共通の用語を用いてコミュニケーションが図れるような土台作りを行っていくことが、シーティングエンジニアとしての専門性を高め存在意義を決定するのではないかと考えます。

実習・演習ではご指導いただいた講師の方々の、経験に裏打ちされた知識と技術を垣間見ることが出来、

改めてこの仕事に携わることへの責任の重大さを認識出来ました。実習の中では、それぞれがセラピスト役や業者役など、普段と違う職種としての視点を経験できたことが、これまでよりも広い視野で姿勢を考えていくきっかけになりました。また、今回一緒に受講された参加者も多職種にわたり、各々が得意・不得意な分野があり参加者同士も教える立場・教えられる立場を経験できたことで、お互いの立場を理解し合い考えを分かち合うことが出来ました。このことで今後の業務の中でも相談し合える仲間を得ることが出来、その機会を与えてくださったこの講習会はその点でも価値あるものとなりました。

欲を言えばユーザーやその家族としての経験が出来る実習などがあれば、変形の辛さやフィットしていないシーティングの窮屈さ、移乗の苦労などを経験により理解することが出来、その事が製品に活かされユーザーの生活に活かされるのではないかと思いました。

3、おわりに

この講習会を通じて、シーティングが車椅子ユーザーの生活に及ぼす影響を痛感し、より多くの人にシーティングの考えや重要性を理解していただき、普及していくことの必要性を感じました。

今回の講習会の運営に携わってくださった講師の方々に対し、講習会の運営のみならず、今までシーティングに情熱を注ぎ、たゆまぬ努力を継続してくださったことを思い、それを惜しむことなく伝えてくださったことに深く感謝いたします。

福祉用具レンタル販売 福祉用具プランナー管理指導者

先日は研修に参加させて頂き有難うございました。

自分にとってはとても有意義な時間になり、学びはもちろん、刺激を沢山頂けた5日間だったと思います。採型実習のグループワークにてセラピスト役をした際に、きちんと頭の中で組み立て、疾患からおきる体の崩れや対策を指示し、自分なりに目標を決め相手に伝える難しさを痛感しました。

作業的な事では、工房で経験したこともありすんなりと頭に入ってきましたが、やはり障害・疾患ごとにおける身体の特性等、力学的な事を解っていないと全然ついていけないと感じこれから勉強をしていきたいと感じております。

症例検討において、①問題点に対しての解決の考え方②リスクのとらえ方③使い方④効果及び効果予測の4項目あり。自分なりに考え書いてみたものの、工房の受講者が作成した内容と比較しても、シーティングに対しての考え方、とらえ方、身体に対する知識の差がありすぎると、恥ずかしながら感じました。

座位保持等姿勢の事につよい工房10年選手と高齢者の方で幅広い知識を求められる福祉用具専門相談員またはプランナー10年選手として、シーティングだけの土俵にたつとこうも知識の差がでてしまうんだなと自分自身感じたところです（良し悪しではなく）。

研修参加者の中にも、貸与事業所従事者（主に高齢者ユーザー）と工房系（主に障害者ユーザー）の方たちとはっきりしておりましたが、皆さんが共通して感じた事ではないでしょうか。

制度の違いや普段からの仕事内容の違いはありますが、シーティングにおいては共通する事もありますので、これから特に高齢者の方もよりシーティングという言葉が教育を通して浸透していければと感じますし、自分も九州でできる行動や勉強は挑戦していきたいと思います。また、シーティングエンジニアと素晴らしい資格だとも思いますので、より全国の福祉用具従事者や他職種の方が目指したい資格になってもらいたいと思います。

すごく個人的な意見になるかと思いますが、シーティングエンジニア養成講習が各地方開催等あれば、興味をもってくれる人も増え、横のつながりを増やす事で全国のシーティングに対する意識のボトムアップもはかれるのではないかと思います。

研修に対する感想分になってなく申し訳ございません。今回の研修で学んだ事や感じた事、きづいた事、自分なりに沢山ありました。今回学んだ事を仕事に教育につなげていきたいと思います。

実行委員、事務局、講師の皆様、本当に有難うございました。

受講アンケートの抜粋

Q. 講習会のカリキュラム構成はいかがでしたか。

- SE としての意味やシーティングの質を考える上で、座学と実習のバランスがよかった。講師の幅も広く色々な話が聞けたのでよかった。
- 症例実習等、普段自分で判断するしかないことを、皆の考え方、作り方、経験を話し合えたのでとても良い経験となった。
- 採寸、採型の実習及び症例による演習など実際に個人、グループで考えながら進めていく内容であったことがとてもよかったと思う。
- 姿勢保持について様々な方向からアプローチしていてよかったと思う。今までなかった、採型時の構えを ABC123 で表し、共通イメージがもてたのはわかりやすくとてもよかった。
- 座学と実技演習のバランスが良かった。社会的な位置づけ、倫理に対してふれていることがとても良かった。
- この仕事で一番重要な部分である評価について多くの時間が取ってあった事。
- 実習の時間が長くとり、また班で取り組む形が良かったです。班でやることにより違う考えがでたりしてあらためて考える時間にもなった。
- 理論と実習がバランス良く、とても勉強になりました。

Q. 今回の講習会は今後の業務に役立つと思いますか。

- 症例に伴うシーティング方法は他の人の理論考え方を多く聞く事が出来、目からウロコの部分もあったので大変役に立つと思います。
- 現在の姿勢保持の考え方や手法を知る事が出来た。
- グループ検討し発表する症例シーティング演習はさまざま意見や考え方を聞くことが出来あらたな意見も多く非常に勉強になりました。
- 大変役に立つと思います。からだの見方や、適合における考え方、今まで以上にシーティングに取り組むことができます。今はモールドは、取り組むのは少ないと思いますが、今後に生かしたいです。
- 多忙の中、評価が浅くなりがちだったが、思考が深くなり、製品に対してのコンセプト（理由付け）が、今まで以上に出来る様になった。
- 前傾姿勢にしてハムストリングをゆるめて骨盤を起こす方法を初めて知りました。これだけでもとても役立ちます。
- 当たり前みたいになっていた今までの考え方が、少し目線を変えることで、また、いろいろな方と話をした新たな発想にむすびついたところが今後にも役立てたい。
- 他業者のやり方、考え方がうかがえた。何気なくやってたことを改めて意義づけのきっかけにできる。
- 講師および各グループの指導者の方々の実際の作業のやり方、考え方などが具体的に分かり良い参考になった。